

未来首都

今後首都移転先と未来都市予想図を考察

追手門学院
大手前高等学校

根岸 龍一・林 楓真

開拓

研究動機

Research motivation

政治・経済の中心が東京である本国では、首都の負担が重く、防災の観点からもその役割を二分させることは必須の課題といえる。東京への一極集中を回避させることが、我々の研究の出発点となった。

研究方法

research method

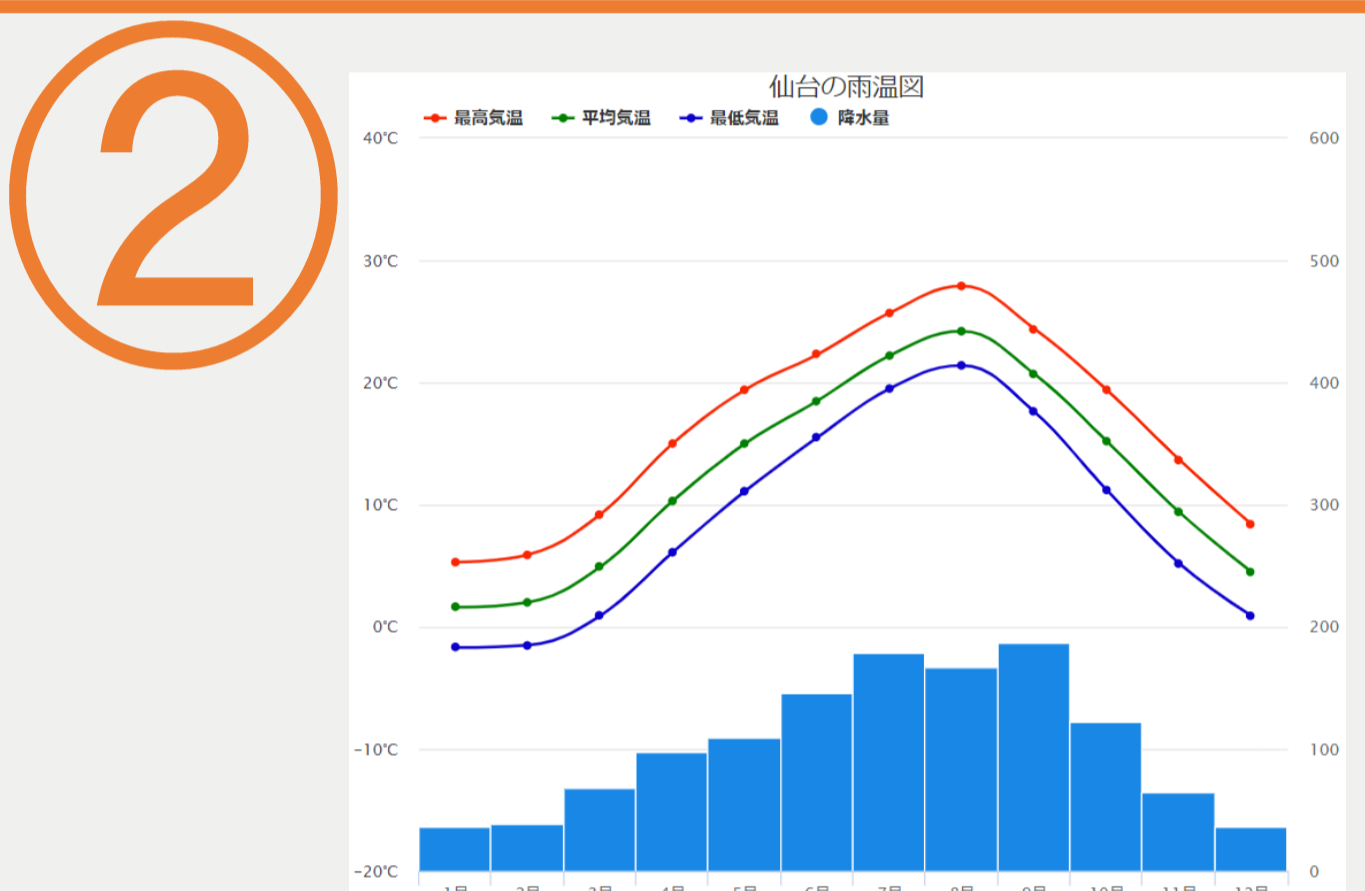
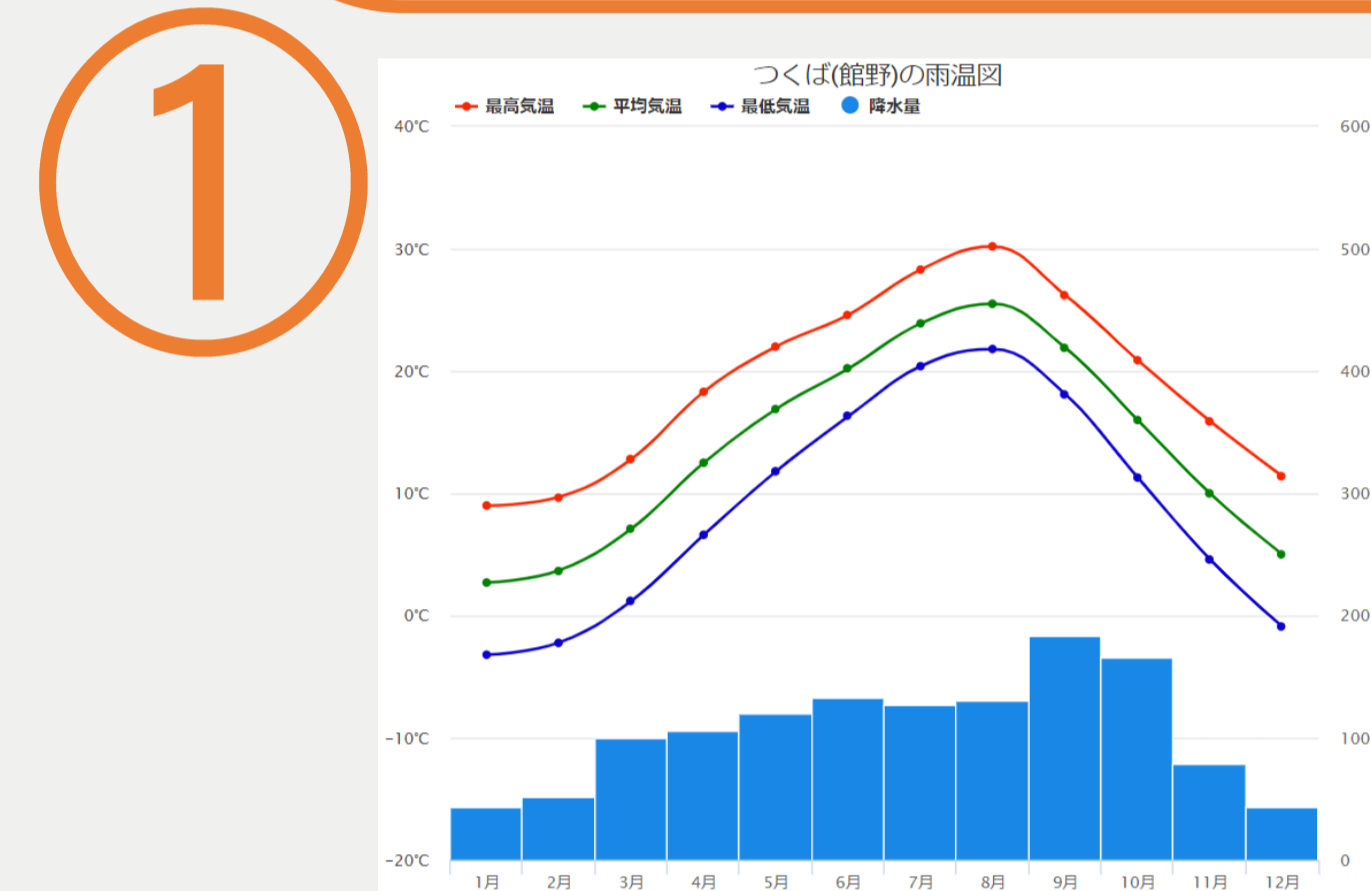
- 1 従来の条件に準拠した都市モデル
- 2 地球温暖化/海面上昇の影響を考慮した都市モデル
- 3 都市の設置せざるに未来社会を考慮したモデル

過去にどのような場所に首都が置かれたのかを調べ「降水量」「標高」「気温」「地形」の平均値を求めて、首都を置くのに適している場所を判断していく。この時、過去に天皇が暮らしていた県の県庁所在地を首都とする。ここで私たちは未来首都には色々な形があると考えたため、3つのモデルを考えた。3つのモデルはそれぞれ上の図である。

研究結果

research result

- 3 過去の首都の平均は、標高20m、降水量1300mm、気温15℃、盆地や平地が多いことがわかった。これらの条件を①に当てはめれば、茨城県つくば市に当てはまる。ここでは標高は20m~30mで降水量は1326mmで平均気温は14.3℃で関東ロームに覆われているため平坦である。②に当てはめれば、宮城県仙台市の都心部に当てはまる。標高は20~50mで降水量は1276mmで平均気温は12.8℃であった。都心部では平坦であるが、少し離れば山岳地帯になっており標高が150m近くになっている。③の場合では首都を作らないためどれにも当てはまらない。



考察

consideration

4 プログレス計画

計画の目的

私たちの計画の目的は、人が住みやすく、誰もが見本にしたいくなるような都市を目指すことである。では実際にはどうなのか？2022年に日経ビジネスが行った「日本の住みやすそうな場所」でのアンケートでは東京は最下位であった。さらに「いい部屋ネット住み心地ランキング」でも評価は最下位であった。これらの問題を解決するために5つの目標を設ける。それは「人と自然が共生し、伝統を受け継ぎながら、革新と創造性を育み、多世代が楽しめる活気あふれる街で、経済成長だけでなく人々の幸福を追求する未来の首都」である。

未来都市詳細

プログレス計画の5つの目標を実行するには未来首都を17分割し、17つの街を作る必要があると考えた。そして未来首都の中心に日本政府の重要機関を配置し、それ以外の街には企業や学校、住宅を配置し、そのほかには工場や農地、娯楽施設などを固めて配置する。未来首都の中心部の周りに森林を配置する。これによりどこからでも行きやすく、地域の人々の健康面や子供たちの遊び場になり、より活気のある街になると考えられる。

提案のメリット&デメリット

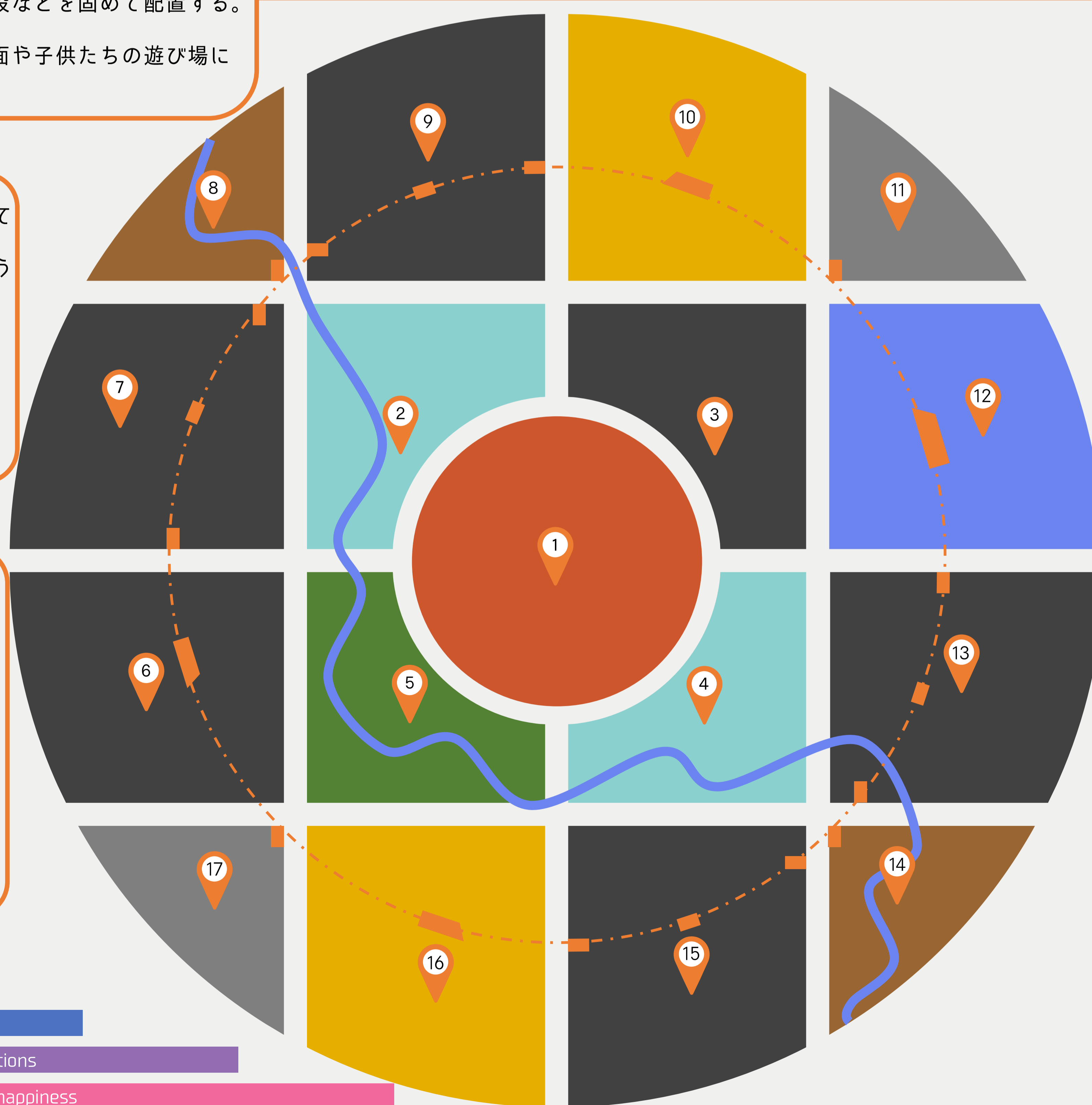
プログレス計画のメリットは、いろいろな場面で協力して助け合える社会を作ることができること、企業でよりよい製品を作ろうとして競争力があがるという点です。さらにプログレス計画を他の地域で行えば、スプロール現象を対策することや、現在日本政府が提案している。コンパクトシティの実現をすることが可能になる。このデメリットとして企業や学校の位置が集中しているため今まで以上の通勤ラッシュになってしまう。

未来都市予想図の記号

- 1: 政府
- 2,4: 大学 企業
- 10,16: 娯楽
- 川
- 駅
- ターミナル駅
- 8,14: 農場
- 3,7,9,13,15: 公共施設 住宅
- 5: 大きな公園

※マップ上の白の空白は主道路です。
※ピン番号はそれぞれ上の数字に対応しています。

未来首都予想図



まとめ

summary

- People and nature coexist
- Inherit the tradition
- Fostering innovation and creativity
- A lively town that can be enjoyed by multiple generations
- Pursuing not only economic growth but also people's happiness

- ・未来首都の場所を探し、今までの条件通りの場合であれば茨城県つくば市、地球温暖化・海面上昇を考慮した場合は宮城県仙台市、都市を設置せざるに未来社会に対応した仮想現実の3つが最適だと言える。
- ・プログレス計画では未来首都を17つの街を作り、分野ごとに固めて配置する。またこのメリットとして協力し助け合う社会ができ、スプロール現象の対策やコンパクトシティの実現が可能になる。

参考文献